

何もかも「温暖化」のせい？

昨日(6/29)の朝日新聞夕刊に、温暖化による海水温の上昇で「珊瑚礁の白化」が起きているのは嘆かわしいことである。早く石炭火力発電所を禁止してCO2排出を減らさねばならない・・・と言った趣旨の記事が載りました。この種の記事はマスコミにしばしば出て、温暖化対策の必要性を強調しています。しかしこの記事は、科学的には何重もの誤りを含んでいます。まず第一に、珊瑚礁の白化は、サンゴ虫の死滅を示すものではありません。元々珊瑚礁は、サンゴ虫と褐虫藻が栄養塩の少ない貧栄養状態で共生している時に形成され、栄養塩が豊富な場合は共生関係を解除して独立します。その結果、褐虫藻がサンゴ虫から抜けると白く見えて「白化」が起きるのです。珊瑚礁の白化は悲惨な現象であり、美しい海の沙漠化であると考えるのは、根拠のない妄想です。また、海水温の上昇でサンゴが死ぬのであれば、暑い赤道地域のサンゴが真っ先に死滅するはずですが、観察されている珊瑚礁の白化は、沖縄など、赤道地域でない亜熱帯地域の海洋で、農地開発などが進んだ地域(=肥料などで栄養塩を大量に投与)でしか起きていないのです。さらに、本欄の読者なら御存知ですが、海洋の熱容量は大気の1000倍も大きいので、大気温度の上昇で海水温が上がることはほとんどなく、かつ人類起源のCO2排出量が大気中CO2濃度に及ぼす影響は数%しかなく、その上、大気中CO2濃度と大気温度には相関性が薄い。従って、珊瑚礁の白化と石炭火力発電所の建設は、全然結びつかない事象なのです。マスコミ報道におけるこの種の論理性の欠如は日常茶飯事とは言え、単なる無知を越えて、犯罪的であるとさえ言えます。害毒となる誤りを含む情報を世の中にまき散らしているからです。

これから夏に向けて、台風や大雨の危険度が高まると思いますが、マスコミはここでも、海水温の上昇、温暖化の脅威を強調するでしょう。しかし、現実の世界は、必ずしも温暖化へは向かっていません。その一例は、小麦の値上がりです。これは、世界の主要な小麦産地で天候不良(主に低温)のため収穫量が減少したことが原因です。マスコミは高温が記録された時だけ大騒ぎする一方で、世界各地で異常低温が続き、中東で雪が降ったことなどは全然伝えませんでした。地球の気候に大きな影響を持つと考えられる太陽活動は、以前お伝えしたように最近は低下傾向にあります。その影響は、地球に降り注ぐ銀河宇宙線の線量データからも読み取れます(下図参照)。

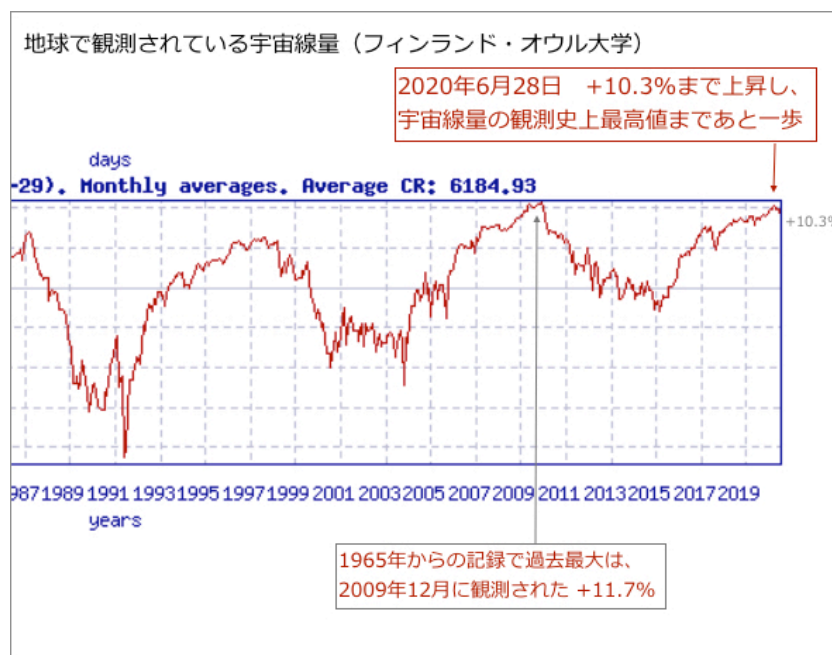


図1 銀河宇宙線の線量データ

図から分かるように、最近の宇宙線量は2009年の観測史上最高値に迫る高いレベルに達しています。宇宙線量が増えると雲ができやすく、雷も生じやすく、気温の変動幅が大きくなる傾向が見られます。すなわち、気候変動の振幅が大きく、異常気象の連続が常態になるのです。近年、「50年に一度の」記録的異常気象が頻発しているのは、偶然でも大気中CO₂濃度の増加(2ppm/年しかなく、かつ規則的)によるものでもなく、太陽活動の低下による宇宙線量の増加によるのが、科学的には最も合理的な説得性があります。異常気象は確かに存在するけれども、その原因が人類起源のCO₂排出である確率はほとんどゼロで、本当の人類の危機に対する備えとしては全然意味のない方策です(予算のムダ)。イタリア科学界が主張した内容は、これと同じです。

我々にとっての本当の危機は何か？最近のコロナ禍対策も重要ですが、今後は異常気象の頻発に対する防災・安全対策と食糧確保が第一優先になるべきです。防災関連では、地震国日本では火山噴火や地震対策が欠かせず、実際、最近は中小規模地震や火山活動の活発化が見られるので注意深い監視と備えが必要です。特に日本近海で、海水温度の上昇が見られるのは不気味な兆候で、温暖化の影響などではなく、地底のマグマが上昇したことの影響と考えると、大規模地震や噴火が近いと考えざるを得ないでしょう(温暖化の影響なら一様に温度上昇するはずだが、海水温度には地域的分布がある)。これらは人知で予知も防ぐこともできず、ただ備えあるのみです。

中長期的には、資源の枯渇と廃棄物の捨て場の確保が問題となり、持続可能な社会とはどんな姿になるのかを具体的に模索する必要に迫られるはずで、例えば、太陽光や風力発電などで、将来の人類社会を支えることは可能でしょうか？化石燃料を使わずに、どうやって太陽光パネルや発電タービンやリチウムイオン電池を作る気なんでしょうか？パソコンやインターネットやAIや情報技術が発達すれば、問題は何でも解決できるとでもお考えなんでしょうか？

マスコミは今でも「気候変動に立ち向かう」「危機を乗り越えるための気候正義」などと囃し立てますが、たとえ人類がCO₂排出をゼロにしても大気中CO₂濃度はほとんど変化せず、かつ、大気中CO₂濃度が大気温度にほとんど影響しない現実を前にして、なぜそんなたわ言しか言えないのか理解に苦しみます。そもそも、気候のような自然現象に「正義」などの倫理的概念を持ち込むこと自体が、頭が混乱している証拠と言えます。サンゴの白化と温暖化を結びつける妄想と同じです。この種の短絡的錯誤思考は百害あって一利なく、我々は冷静に現実を眺める「目」を養う必要があるのですが、これがなかなか難しいわけです。

異常気象や気候変動の原因を何が何でも人類起源のCO₂排出だと決めつけるのは、風車を巨人と間違えて突進したドン・キホーテみたいなものです。そのドン・キホーテに、田舎娘アルドンサが言った言葉は味わい深いと私は思います。彼女は何と言ったか・・・『よくお見なさい・・・ものをよくお見にならなくては・・・』と。

文責：副理事長 松田 智